

## のりくらSDGsチャレンジ

### 1 ねらい

国立乗鞍青少年交流の家の周辺の森林において、自然観察や自然体験活動を通して、森林資源の素晴らしさや大切さに気づき、森林資源を守っていかうとする態度を育成する。

### 2 期日・人数

5月から10月にかけて団体が希望した日に実施。

小学校15校 中学校3校 一般団体2団体 の合計20団体で878人が参加。

### 3 講師・スタッフ

ツリーイング指導：TMCA (Tree Master Climbing Academy)

源流ハイキング・エコバッグ作り：国立乗鞍青少年交流の家 企画指導専門職

### 4 活動内容 (活動の様子)

#### 【源流ハイキング】

森を散策しながら地下水が湧き出る場所を探す体験をします。海に流れていった栄養分豊かな水が魚を育てていることを理解します。分水嶺の上を歩くことができます。



#### 【エコバッグ作り】

綿バッグに葉の形を写し取る体験をします。葉脈を見て、蒸散と水の循環を理解します。また、エコバッグを使うことでレジ袋の削減につながり、マイクロプラスチックや二酸化炭素の削減に役立つことも理解します。



#### 【ツリーイング】

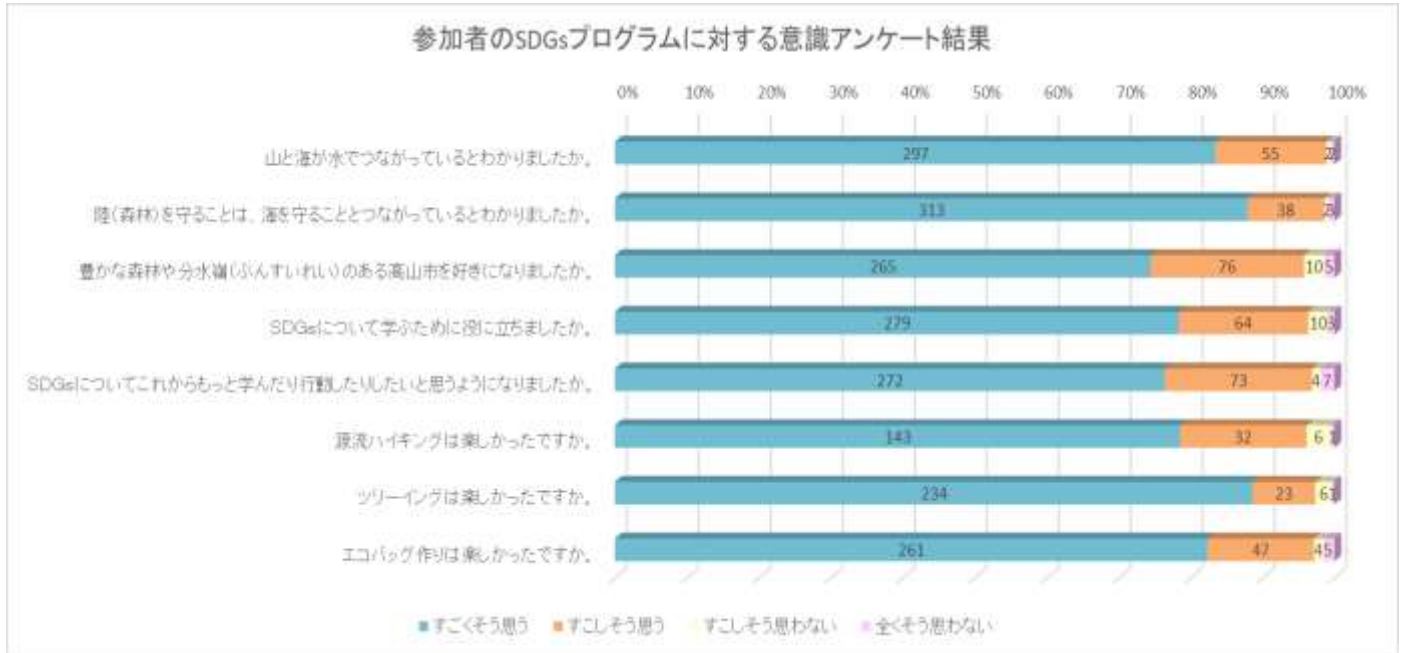
ロープを使い、自らの力で巨木に登る体験をします。巨木の生命力を感じながら、山の斜面を守ったり、地下水に溶けこむ養分を作ったりする樹木の役割を理解します。



3つのプログラムは、SDGsの目標のうち、14「海の豊かさを守ろう」と15「陸の豊かさを守ろう」について学ぶことができるように、指導講師の説明を聞きながら体験活動をするようにしている。

体験者が、森林資源が豊かであると、その場所を水源としている地下水や川がきれいになって海まで流れ込んでいくことを想像すると、山と海がつながっていることに気づくことができる。また、分水嶺や水源池があるということも知ることで、飛騨高山は海に面していない地域ではあるが、森林資源を守ることが海も守ることにつながっていることを学習する。この体験を通した学びによって、SDGsに対して興味・関心を高め、実践意欲をもてるようにしている。

## 5 参加者からの感想



- ・山と海のつながりを理解できている児童が83.4%いる。
- ・分水嶺のある高山市を好きになった児童が74.4%いる。
- ・SDGsを学んだり行動したりしたい児童が76.4%いる。

## 6 まとめ

- ・3つのプログラムは、全て体験しなくてもSDGsについて興味・関心をもったり、理解を深めたりすることができた。
- ・体験活動の自体の楽しさによって、活動に意欲的に取り組むことができ、体験者が主体的に学習することができている。
- ・体験を通した学びは、実感を伴った理解につながりやすい。
- ・指導講師料がかかる「ツリーイング」を教育事業の予算で多くの学校に体験してもらうことができた。
- ・研修支援プログラムとして提供できるように、申込方法や実施方法を整えることができた。
- ・高山市企画部企画課SDGs推進係と連携し、「飛騨高山SDGs未来都市パートナー」に登録することができ、SDGs体験プログラムについて、高山市民への広報が進んだ。

## 7 今後の取組

- ・春から秋の時季でないと体験できない「ツリーイング」と「源流ハイキング」だけでは、冬のプログラムが構成できない。そのため、「雪上ハイキング」や「マイクロプラスチック探し」など、新たなSDGs体験プログラムの開発に取り組む。
- ・「ツリーイング」は安全管理と必要備品の関係で、外部指導講師に準備・指導を依頼している。すると、実施団体は指導講師料を負担することになるため、研修支援プログラムとして提供しても実際に選択する団体は多くないことが予測される。そこで、高山市林政部林務課や岐阜県緑化推進委員会など、自治体や公益財団法人と連携して指導講師料を援助できる仕組みづくりに取り組んでいきたい。